ゴイモン　モンゴルを旅する

ニモンゴルツアー風景ニ

大草原で乗馬ライディングをするんだ

ゴイモン　プロフィール

ゴイモンって？？？

こんにちは
ゴイモンです。

モンゴルで乗馬ライディングをしようと思って草原にいくことにした

ひろいなー

草原へ移動中の車内より

これがツーリストゲル
思ったよりも快適〜

ゲルの屋根にのってみた
ねむくなった

クラに乗る練習中
ひだり足をあぶにみかけて
右足でまたぐ

慣れてきたらすぐできた
乗る前にストレッチした効果がいい感じ

乗れた
あとは背筋をのばすだけ

あぶみには浅くつま先をおけばいいんだって
届かないときは調整するって言ってくれた
・・・届かない　人間用だし

よし！　今日からたのむぞ　タワシくん
すごい　いい気分～

・・・タワシって・・気に入ったかも・・
（ｂｙタワシ）

遊牧民と一緒にいくんだって
腹帯とかクラもみてくれる　ありがとう

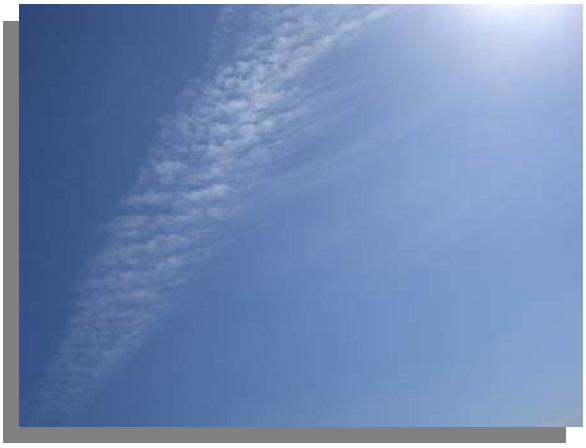
ツアーで一緒になった　ともだち
一緒に乗馬ライディングはたのしい～

太陽がサンサン
ゆっくり馬に慣れた一日

帽子とかにはひも付きがいい
おとすとタワシ（馬）がこわがるからね

＊帽子（貸してくれるヘルメットでもいいね）は必要
　クツはスニーカーにチャップスでもいい。ブーツがあれば一番だけど。
　乗馬用の手袋を持っていたらナイス。軍手ならぼつぼつが付いているほうがフィット感があるかも

乗馬ライディング中に出会った風景



ツーリストゲルに泊まった

ツーリストキャンプには
ツーリストゲルと
レストランの建物なんかがあって
端からはじまでは結構ひろい

なんかおもしろい

ツーリストゲルの中です。
とびらをはいると
まるいゲルの真ん中にストーブがあるんだ
ゲルの壁にそってベットがおいてあって
机とかわいい椅子があるよ

お湯をもらってまったり　ふああ～

きもちのいいベッドで
おひるね

昼食のあと午後の乗馬まで
お腹をやすめる　自分もやすめる。。
ＺＺＺ...

ゲルにあるストーブは
寒い時に係りの人がつけにきてくれた
自分でも挑戦してみた

入れすぎるととても暑い～
ちょっと少なめでじんわりきもちいい

ワン　バウバオウ　こんにちは
ツーリストゲルの番犬（ハル）くんと話した

ツーリストゲルの中には決して入らないんだって　みんな仕事に忠実な仲間なので手をだしたり近づいたりしないでほしいって

目の上にある茶色のテンがおしゃれ～
四つ目犬とも呼ばれるんだって
大きいな 30 キロはありそうだね

シャワーと脱衣所　このとびらを出たところがちょっと広くなっていて　準備もラクだった
男女別だし　清潔だった

水量は日本ほどはでないけど
あったかいお湯もでるし
水の貴重なモンゴルでは十分かな

南ゴビにいってみた

３６０度ぐるり
ひろい　はてしない
そして　フタコブラクダだー
ゴビは地平線がいっぱい

フタコブラクダは近くで見ると思ったよりおおきい。。

夜は広い空いっぱいの星　星　星
星空に浮かんだんだ

モルツォグ砂丘は
月の影響をうけて現在も少しずつ移動しているんだって

風で砂丘にきれいな風紋ができる
歩いてみたけど　風が吹くと
またきれいな波模様　うっとり

ヨーリンアム渓谷　鷲の谷という意味の渓谷は上空にオオワシがまっていた
足元で鳴いていたのはナキウサギだった　ワンっていったら　隠れちゃった。。。
険しい岩山には野生のヤギなども生きているんだって　渓谷入口の博物館できいた
渓谷はピクニックできてすがすがしい気分　結構歩くとちょっと落差のある滝にぶつかった
そこに万年雪（氷）があった　１０年くらい前まではもっともっと残っていたらしい
最近はなくなる年もあるんだって地球規模で自然を身近に感じてしまった
あのナキウサギくんにもう一度あって　驚かしてごめんねといいたい

世界遺産になった　古都カラコルムをたずねた

草原の中を走る道をたどって
古都カラコルムへ

騎馬民族はあまりその足跡を残していない
草原の空間にその姿を捜しにカラコルムにいく
ことにした

日差しが行く手を照らしてくれた
移動するときはミネラルウォーターを持ってい
こう
日本より乾燥しているから水分補給は重要だよ

日本みたいなパーキングエリアはないから
トイレは途中に休憩所があるから
もちろん青空トイレが一番さ

カラコルムまでは結構とおい
途中のブルドで１泊　せっかくのモンゴル
ゆっくり旅のほうがきっとあってる

ツーリストキャンプで出会った夕焼け
こんなきれいな夕焼けをゆっくりみたのは
本当に久しぶり　こころがおちつくよ

エルデニゾー寺院は
108 の仏塔にかこまれ　大草原にその荘厳な
姿を現していた
タイムスリップした気分だった
目をとじると　古代騎馬民族の姿が感じられた

カメくんがいた　カメじゃなくて亀石（亀趺）
昔、世界を支えていたという伝説をもっている
と静かに教えてくれた　静かで厳かな時間だった

ごはん

ツーリストキャンプでのごはん

毎回いろんな種類のお料理が出てきて　うれしかった　おいしかった

朝食　パン　卵料理　コーヒー紅茶　　ベーコンとかもあった
昼食　サラダ　スープ　メイン（お肉料理とかパスタとかいろいろ）デザート　パン
夕食　サラダ　メイン（お肉料理とかパスタとかいろいろ）　パン　などなど
モンゴル伝統料理　ボーズとかホーショールのときもありました。
たくさんたべました。ごちそうさまでした！

コックさんともともだちになった　パンもコックさんが焼いてくれていた

遠出したときモンゴル伝統料理ホーショールがお弁当になった　おおきな揚げ餃子という感じ
うまかった～　　パンにはさんで食べても　うまかった～

肉入りうどんに似た食べ物はゴイモンといいます　同じ名前だ。。。
肉はうし肉が多かった　羊肉もあったけどクセがなかった
塩あじが基本な感じ　サラダもいろいろあって　へえええという感じだった　　おいしかった～

ウランバートルホテルの朝食

ウランバートル市内のホテルはほとんどが
　ビュッフェ（バイキング）形式だった

ゴハン　パン　ソーセージ　卵料理
サラダ　デザートなど　いろいろ
コーヒー　紅茶　ジュースなど
好きなものばっかり　食べてしまった　朝から満腹～

景勝地テレルジ国立公園

もうすぐテレルジ国立公園
どんな景色に出会えるかな～

きれいなところなんだと
自慢された
わくわくするな

岩山が連なっていてダイナミック
いろんな形にみえてきて　不思議

すごい昔　火山帯だったこの地域
草原の広がるモンゴルにはめずらしく
森林地帯もひろがっていた

身長（高さ？）約 15 メートル
後ろ側からまわって登っていくと
ちょうど首の付け根あたりにでられる
この巨大なカメは亀岩とよばれていた

ほんとうにカメみたい。。。。
ふしぎだね

青い布はハタクといって聖なる布
大切なものや尊いものへ巻いたりする
亀岩の木々などにも巻いてあった

たくさんの花がさいていた
白いエーデルワイス
背たけのみじかい　かわいらしいお花が
たくさん

蝶々もひらり　ひらりととんでいた

紫色のアザミに似た花
桔梗のような花
ホタルブクロに似た花
きいろ　むらさき　しろ　ぴんく
おれんじ　みずいろ　うすべにいろ

花の名前はよくわからなかったけど
可憐で力強く咲いている姿がすてきだった

ハリネズミだ
ワンといったら　丸くなってしまった。。

小さな手がほんとワキワキしていてかわいい
びっくりさせてごめんね

テレルジはいきている
いきものたちの楽園だね

ひとと生き物と花々と
すてきな場所だった

野生馬タヒのいる風景

ホスタイ国立公園にはタヒがいた

野生馬タヒは広大な国立保護区で自然なすがたで生きていた

モンゴル馬の祖先　その祖先はシマウマ
おおきな時代の流れと馬たちのたどってきた時間の長さを感じられた

少し大きめのあたま　丸い感じの馬体
足元にはシマウマの名残のシマしま模様
背中に一本線

朝と夕方は丘を下ってくるから
出会える確率がたかい

世界でもここにしか生息していない
一度は絶滅の憂き目にあったタヒ

それでも　いまなお
ゆったりとしていて　雄大で

今度はもっとゆっくり会いにこよう

遊牧民との出会い

ゲルという移動式の遊牧民の家
お父さんお母さん　おじいちゃん
おばあちゃんに子どもたち

そのほとんどの遊牧民が大家族で
仲良し

乗馬ライディングのときも遊牧民
が一緒にいてくれて　馬の乗り方
を教えてくれたり馬具をみてくれ
たり本当に仲良くなれた

遊牧民のゲルにお邪魔したときも
近所のお父さんたちも集まってい
て楽しかった

子どもたちはわりとはにかみ屋さ
ん。でも。なれてくるととってもひ
となつこい子たち。

３歳の女の子が“ はい。どうぞ ”と
椅子をもってきてくれた。
モンゴルっていいな。

うまれて１カ月ちょっとなんだっ
て

ふかふかだね

草原のお花

草原にねころんでみた
空がいっぱいにひろがっていた

草原をみると
お花が咲いている
季節によってちがうけど
本当にきれい
かれんで　そぼく
名もないお花はとてもかわいい

足元に
背丈のひくい
小さい花がさいている

エーデルワイスとか
アザミに似ている花
ポピーみたいな花とか

自生しているたくさんの種類の
花ばなをごく普通に
見られるってすごいと思う

草原にわたる風と
花と
空と

夢のまったり時間だったなあ

フィッシング　ビックバイト

オノン川
モンゴルの大自然の中　悠々と流れる大河

３度目のキャストであたり
レノックがバイト

きれいな　赤のパール模様
この後もヒットがつづいた

ビックバイト！！
・・・・・・・・・・・
格闘しました
・・・・・・・・・・・
あせってしまいました
・・・・・・・・・・・
おそらく８０センチ越えのタイメン（イトウ）
ああ～　残念。。。。。。。。

君に出会うためにきたのだけど
ｔｕｒｅｎａｉ　..

連日いいお天気

ポイントが豊富で
魚種もいろいろ

タイメン
レノック　ノーザンパイク
グレーリグ　など

さて今日はなにがあがるでしょう

ミノーできました
シンキングミノーです
この子は本当によく働いてくれます。宝物です

この瞬間が感動です！！

スピナーでもいいバイトがきます
今日は絶好調！！

釣りのガイドの先生がいいポイントおしえてくれます。

ちょっとはにかみ屋さんだけど
落ち着いた釣り師という感じ。

早朝から深夜まで一緒ですっかり
なかよしになりました。

ロットはシーバス用でいいとおもうのです。でも、お好きなものでどうぞ。
海用の固めでもやってみました。
いいのです。いけます。

85 センチのノーザンパイクです。
いい引きでした！やっとあげた～！！
Ｄコンできました。
モンゴルの大自然に感謝！

そらをゆく　フライト

ＭＩＡＴモンゴル航空でモンゴルへいきました

ウランバートルの空港名は
チンギスハーン空港です。

機内はこんな感じ
機内案内が日本語であったので安心　フライトアテンダントさんも親切～

シードベルトはちゃんとしめましょう

雲の上をすいすい
もうすぐ機内食のお時間かと

習いたてのモンゴル語で言ってみよう～
飲み物はお水（オス）がいいですって　ふぁいと～

おいしかったです
パンをメインの上にちょっとの間乗せておくと温かいパンになります。裏技です。

ごはんたべて　映画見て
ちょっとうとうとしたら着いてしまいました。

お水もらえました。発音がちょっと難しいけどもらうことができました～

ホテルのようす

チンギスハン　ホテル	ウランバートルホテル	ハーンパレスホテル	コンチネンタルホテル	バヤンゴルホテル
フラワーホテル	パレスホテル	ビシュレルトプラザホテル	エーデルワイス　ホテル	ウランバートルでは新装・改装したホテルが増えています。ご利用頂けると判断した際は随時追加してご案内致します

フラワーホテルのようす

フラワーホテルは相撲宮殿の近く中心のスフバートル広場まで歩いても１５分くらい　すぐ近くには２４時間営業のスーパーも。便利なホテルです。

館内にはビジネスセンターも。日本食　洋食　中華レストランがあります。
日本風の大浴場がナイスです。
マッサージルームもあるのです。

ツインルームには　シャワー：バスタブ付き　トイレがあります。

ＮＨＫもみれるテレビにミニ冷蔵庫。お湯をわかせるポットがあるのが魅力的。わりと広いので二人でスーツケースひろげて準備もできちゃいます。

チェックアウトのときは
個人的な支払いをすませます。

鍵をみせるとお部屋係りに連絡が行って確認してくれます。

親切な受付の方にであえました。
日本語での対応もしてくれます。

ロビーでゆっくりすることもできるんです。

空港とひろば

ウランバートルの空港はチンギスハーン空港です。外装および内装のリニューアル工事もすすみお土産屋さんも増えました。

空港から市内までは約 45 分。左右に草原を見ながら走り市内門をくぐって市内にはいります。

車窓から道路です。日本と逆の右側通行～
道路を渡るときはよく注意してわたりましょう。

スフバートル広場は市内の中心にあります。国会議事堂もここにあります。

モンゴル０地点もここにあります。

広場中央には１９２１年のモンゴル革命の指導者のひとりスフバートル像と１４頭の獅子像があります。

2007 年には建国 800 年を記念しチンギスハーン像が正面におかれています。

狛犬に似た 17 世紀時代の国印の鑑の像も国会議事堂の裏手に 2006 年お目見えしました。シャッターポイントの多いスフバートル広場付近です。

ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ市内は発展中

中心部から 20 分くらいのところにザイサントルゴイ（ザイサンの丘）があり市内を一望することができます。200 段以上の会談を登りきった先にはタイルのモザイク壁画のモニュメントがあります。

ふもとに観音様像が建立されました。

発展する市内をみつつ歴史をふりかえりました。

ラマ仏教のお寺ガンダン寺。篤い信仰を集め、現在も数多くの僧侶が修行をしています。
結婚式やいろいろなご報告の際に参拝に訪れる方がおおく、にぎやか。

高さ 25mのジャナラクサクの開眼観音像があります。

読経中の写真撮影は禁止されています。
日本のお寺と同じと考えたら大丈夫ですよ。きっと。

ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ市内さんさく

市内中心に位置するの元国営のノミンデパートにはたくさんの商品があります。日用雑貨から宝飾品家電製品も揃っています。

お土産売り場も充実しています。フェルト製品や絵画、Ｔシャツなど旅の記念にはちょうどいい感じです。

警備員も配備されていますが貴重品にはご注意ください。

市内は右側通行。最近は交通量も激増。渋滞もしばしばみられるようになりました。

自然史博物館には
地球の成り立ちから
モンゴルに生息する動植物の展示　古代生物の骨格標本も多く
子ども時代の遠足気分。

ユキヒョウなどのはく製や
ナウマン象の牙など迫力あります。

タルボザウルスの骨格標本は
こんな大きな生物に襲われたら
と想像するとこわいです。